

雨乞い習俗

二千年以上にわたって米作りを営んできた菊池平野では、伝統的に雨乞いは精神生活の中心的な要素であった。そのため、雨乞いの儀式が盛んに行われ、そのいくつかは現在でも菊池市で行われている。その二つが「川祭り」と「雨乞太鼓」で、毎年夏の盛りを前に、現在は 7 月 20 日前後、同じ日に行われている。

川祭りは、菊池市中心部の南、住吉日吉神社近くの合志川河畔で行われ、水害を引き起こすとされる河童といういたずら好きな妖怪を退治するものである。河童の好物とされるキュウリやナスなどの夏野菜を神事で使う御幣に取り付け、河原に置いて河童に「食べさせる」。

川祭りに続いて、住吉日吉神社境内で行われる雨乞太鼓は、参加者が大太鼓を叩いて雷の音を模したものである。これは、中世の領主が干ばつに苦しむ民衆を救うために太鼓を打ち鳴らし、その努力を認めた天の神々が雨を降らせたという伝説に由来している。